

第二部 「ECONOMICS」解題

浜田雄介(成蹊大学)

江戸川乱歩は1912年9月に早稲田大学政治経済学科予科に編入し、翌13年9月に本科に進級、1916年7月に卒業した。「ECONOMICS」の封筒(410-0001)に入れられた資料は、おおむねこの時期のものである。同時期の資料としては「OPERA CHILDREN」「JICHI-SHINPO」「EXTRAORDINARY」などの封筒に、自ら編集した新聞・雑誌の記事や翻訳・創作の原稿などが収められるが、「ECONOMICS」には、政治家を目指し、やがて学究たらんとしてかなわなかった平井太郎青年の、学問との遭遇、格闘と愉悦の記録が残されている。

当時の早稲田¹は専門学校令に従う高等教育機関で大学の名称が認められていたが、大学部進学に足る学力を身につけるための機関として高等予科が設置されていた。中学卒業後の4月から半期ごと3期で1年半の予科を経て大学部に進学する仕組みだったが、9月の編入試験に合格すれば1年で進学することもできた。『探偵小説三十年』で乱歩は「官立大学の高等学校を通過してゐないことは生涯の不幸であつた」と嘆き、自己や人生に悩んで先人思索の跡をたどる高等学校の3年間の重要性を説く²。青年期の乱歩にその思いがあったかは不明だが、教養教育の充実は時代の要請でもあった。大学令への対応も睨んで、早稲田では乱歩卒業の翌1917年から予科の修業2年となり、さらに1920年には高等学校を設置するに至る。

予科の1年間の資料としては、「早大予科十九才か」と注記³された資料番号410-0002「死」および410-0003「一年間の早稲田生活より得たる感想」の作文がある。前者は1911年7月に没した祖母和佐の死の前後を綴ったもので、帝国少年新聞社原稿用紙を使用している。後者は「活潑なる精神は健康なる身体に宿る」という命題に対する反論で、催眠術を持ち出すあたりには嗜好と時代性が伺えようか。それぞれに講評を記した五十嵐力は、この頃刊行の『作文三十三講』⁴中に、自身の作文に受けた師の圈点と批評への感激を記している。そのような教育が、乱歩にも注がれていたということであろうか。410-0001の封筒に姓名が記された恩師は五十嵐のみである。

祖母和佐については410-0022の「大正二年八月廿二日」の手記でも回想されているが、ここで想起されている幼少期からの親友丹下高福は当時病に伏しており、9月25日に死去する。身近な喪失とともにあった乱歩の学生時代が偲ばれる。

410-0022の「法令彰ラカニシテ盜賊滋ニ衆シ」「空想未ダ必ズシモ実効ナキニアラズ」は封筒(410-0001)に記された「予科教室にての作文二、三」と思われるが、「大正三年三月廿日」の執筆日注記にやや疑問が残る。評点の牧野謙次郎は漢学者で、予科では作文、大学部では論文を担当していた。また410-0023には予科および大学部での試験問題が綴じられており、当時の早稲田教育を知る上でも興味深い。記された教師名は安部磯雄、伊藤重治郎、浮田和民、梅若誠太郎、河野安通志、坂本三郎、塩沢昌貞、永井柳太郎、宮島綱男であろう。

大学部に進んで最も早い時期の活動資料が410-0004「二個師団増設反対論演説草稿」で、

1913 年 12 月 6 日に催された早稲田大学雄弁会の懸賞演説会の草稿である(『貼雑年譜』1,043)。日露戦争後繰り返し論議されていた二個師団増設に、経済学的利害から反対を唱えたもの。もともと早稲田は明治 14 年の政変で下野した大隈重信や小野梓らによって創設された大学であり、雄弁会の総裁も大隈であった。二個師団増設は、その大隈内閣のもとで 1915 年に決定する。

乱歩もまた、早稲田入学時は「無論政治家志願」であったが、政治熱は大学部進学の際には冷めていたという。回想には傍聴した国会への倦厭も記されるが、むしろ自らの資質の発見によるものだったと思われる。

早稲田の政治学科というのは、実は政治経済学科で、同じクラスにしながら、夫々好む所に従って科目を選択することが出来る仕掛けであつたが、僕はいつとなく、その経済学の方へ引きつけられていた。経済学も殊に経済原論の欲望論だとか価値論だとか、人間そのものの研究が僕にはひどく面白かつた。社会学、社会心理学なども、経済学と結びついて僕をそそのかした⁵。

大学部に進んだ乱歩は、仲間たちとの回覧雑誌『白虹』を発行する。410-0006 はそこに投稿した論文原稿で「経済学上ノ欲望之研究」と題し、1914 年 4 月 16 日脱稿の記載がある。序文にはマーシャル、イリー、河上肇、福田徳三、シュモラー、ワーグナーら、原書や訳書で読んだ 17 名 19 冊の参考文献と、間接的に情報を得た 10 人の学者名が並ぶ。イリーのものは大学の教科書とあり、乱歩が師事した塩沢昌貞を含め新歴史学派の色彩が目立つ一方で、クラークやミル、ことにマーシャルへの言及も多い。諸学説を参照して欲望についての定義と分類がなされるが、内外の文献収集、要説、定義、分類という一連の方法は、後年の探偵小説研究でも繰り返される。実際、探偵小説の文献収集に際し「学生の頃マーシャルの『経済原論』がほしくてたまらず、苦学生の私としては非常な苦勞をして、やっとそれを手に入れた時の喜び」を回想する文章もある⁶。

410-0006 を基軸にした欲望をめぐる初学時の学びの記録も見ておく。封筒資料とは別に「早大ノート」と説明注記されたノート二冊(1914 年 3 月起筆)などもあるが、カードや用箋の使用も多く、後から紙縫りで綴じられている。410-0007 の諸学説の抜き書きは、「HIRAI」と印刷した用箋の使用が目立つ。410-0008「経済学と心理学との関係を論ず」は Palgrave 編『Dictionary of Political Economy』の項目翻訳で、同 14 年 9 月 8 日夜に執筆との記載がある。410-0006 の欲望論で予定されながらも書かれなかった心理学的考察に関わる展開と言えよう、やはり『白虹』に投稿されたという。410-0016 は Sydney Chapman『Outlines of political economy』や Frederick Taylor『The Principles of Scientific Management』の訳文や文献メモが記されている。後年のものと思われる「マーシャル経済原論の翻訳」という説明注記は、乱歩の記憶におけるマーシャルの大きさを示している。

乱歩の卒業論文は進化論をベースにした「競争論」で、410-0009、10、11～14 はその関連資料である。410-0009 は説明注記に「卒業論文の草稿の一部「競争論」とあり、また「この論の資料草稿は別二袋にあり」とある。410-0010 はその封筒に入った資料草稿の一つで、帝国劇場 1914 年 12

月のチラシの裏面が使われていて時期が推定できる。410-0012 は主に日英の文献からの抜き出しメモと、友人の稲垣精一にドイツの経済書について聞く 1916 年 1 月の手紙の稿である。410-0013 も競争関連草稿であり、410-0014 は文献メモだが、必ずしも執筆時期を詳らかにしない。

乱歩は大学時代の読書として、「ダーウキンノ進化論ニ感動シクロボトキンノ「相互扶助論」ヲ愛読シ、マルサスノ「人口論」ニ関心ヲ持ッタ」と記している(『貼雑年譜』1.039)。「競争」はまさに進化論の概念だが、410-0005「人口問題ヨリ見たル人類ノ将来ハ悲観也」はマルサスを援用した論文草稿である。410-0017~19 は交通論関係の学習の記録で、410-0018 に 1916 年 1 月 17 日の日付が記されている。「交通政策」の授業に関わるものであろう。資料の集成には、大学という場で、また時代の中で、学問の諸潮流が力動的に交錯する現場を眺める興味がある。

以下 410-0011、15、24 は卒業後の経済学社会学関係の研究メモで、410-0011 は 1917 年創立の大阪商事株式会社の原稿用紙、410-0024 は乱歩が 21 年春から 22 年夏まで関わっていた工人倶楽部の原稿用紙が使われている。職と居を転々としながら身につけた研究姿勢は失われず、工人倶楽部の機関誌『工人』には卒業論文を展開させた「競争進化論」を掲載している⁷。410-0015 は大阪図書館(現府立中之島図書館)の文献データと抜き書きだが、そこに記された 1922 年 10 月は、「二銭銅貨」を書き上げ、馬場孤蝶に送った月である。410-0024 には「パノラマ島奇談」冒頭を思わせるユートピアの列举もあり、学問と探偵小説の夢との交錯も彷彿する。やや唐突だが、410-0020、21 のポー「スフィンクス」の訳稿が挟まれているのもそのような交錯の結果であろうか。「スフィンクス」訳稿は「EXTRAORDINARY」の封筒内にも遺されている。

¹ 以下の早稲田大学に関する記述は主として『早稲田大学百年史』(早稲田大学出版部、1978~1997 年)による。

² 江戸川乱歩「探偵小説三十年 一」(『新青年』1949 年 10 月)。以下乱歩の引用は小学館『江戸川乱歩電子全集』(2015~2018 年)による。

³ 乱歩の自伝的資料の多くには、後年の乱歩自身による説明注記が施されている。たとえば 410-0002 は朱筆で「早大予科十九才か」とあり、410-0002、410-0003 とともに黒ペンで「五十嵐力先生評点」とある。

⁴ 五十嵐力『作文三十三講』(早稲田大学出版部、1913 年)

⁵ 江戸川乱歩「処女作まで」(『探偵実話』1954 年 9 月)

⁶ 江戸川乱歩「幻影城通信 11」(『宝石』1947 年 9 月)

⁷ 江戸川乱歩「競争進化論」(『工人』1922 年 1 月)